

交通ルールを守って
つながる笑顔



かながわの交通

2013

10

交通安全年間スローガン佳作(全日本交通安全協会会長賞) ~歩行者・自転車利用者に対するもの~

光ります ルールとマナーと 反射材



伊勢原観光道灌まつり (伊勢原市)



自転車はどこを走ったらいいの...? 教えて!

自治会・企業・高齢者の集まりなどで

チリン・スクール を一緒にやりませんか。



◎県内の交通事故発生概況(9月末)

年別	区分	発生件数	死者数	傷者数
平成25年		24,814	112	29,653
平成24年		26,929	121	32,165
増減数		-2,115	-9	-2,512
増減率		-7.9	-7.4	-7.8

◎県人口・運転免許人口

	総数	男	女
県人口	9,081,005	4,544,318	4,536,687
免許人口	5,563,224	3,227,394	2,335,830
割合	1.6人に1人	1.4人に1人	1.9人に1人

(県人口は平成25年9月1日、免許人口は平成25年8月末現在)

平成25年度
関東管区警察局長
関東交通安全協会連合会会長
 連名表彰
 4団体、1事業所、31名が受賞

この表彰は、地域、職場等において交通安全活動を積極的に推進し、交通事故防止に功績のあったと認められる団体及び長年にわたり安全運転に努めた無事故の優良運転者に対して行われるもので、本県では次の方々(団体)が受賞されました。

～おめでとうございます。～

◎ 交通安全功労団体

- 横須賀交通指導員連絡部
代表 原田周二(横須賀)
- 瀬谷交通安全協会交通指導員部会
代表 青木一喜(瀬谷)
- キリンビールマーケティング株式会社
横浜支社
代表 藤本省三(加賀町)
- 湯河原町交通安全母の会
代表 露木きよこ(小田原)

◎ 交通安全優良事業所

- 梅沢企業株式会社
代表 梅沢利雄(神奈川)

◎ 優良運転者

- 清野初代(磯子)、岸忠夫、松下利企(金沢)、渡辺武、常警勇(保土ヶ谷)、秋庭桂三(港南)、小林繁(港北)、脇 正(青葉)、唐戸正治、渡邊菊男(都筑)、松本康治(泉)、金子俊雄(川崎臨港)、奥村一丸(高津)、青木智、浅谷登志雄(多摩)、山崎篤實、小島一重(横須賀)、中野日出夫(浦賀)、吉田洋(三浦市)、小川紀一(逗子市)、三浦正樹(藤沢市)、松下光夫 松嶋久美子(藤沢北)、舩島秀子(平塚市)、玉井充(小田原)、山口和余(秦野市)、小峰昭二(伊勢原)、平野弘(厚木警察署管内)、星野正男、田加井政勇(相模原)、中村義春(津久井) (以上敬称略)

違法駐車追放運動の実施

～首都圏放置自転車クリーンキャンペーン～

○趣 旨

違法駐車や放置自転車・バイクが交通事故や交通渋滞の原因となっていることから、県民一人ひとりが交通ルールを守り、駐車マナーを向上させることにより、安全で円滑な交通環境を確保するため、10月中違法駐車追放運動を県民運動として実施するものです。この運動に併せて自転車・バイクの放置を防止するため、関係機関・団体が相互に連携を密にして「首都圏放置自転車クリーンキャンペーン」を展開します。

○期 間

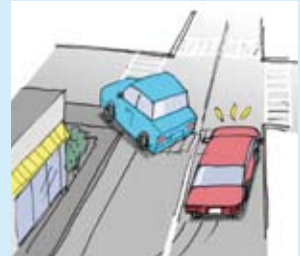
平成25年10月1日(火)から10月31日(木)までの1か月間

○スローガン

- ・違法駐車追放運動 … ちょっとだけ 甘えが招く 迷惑駐車
- ・クリーンキャンペーン … 困ります! 自転車置きざり 知らんぷり

○交通安全協会の推進事項

- ・違法駐車、放置自転車等の追放気運を盛り上げるとともに、併せて自転車利用者に対し、交通ルールの遵守とマナーの向上及び自転車等の防犯登録、記名促進を呼びかける。
- ・運動の周知を図るため、違法駐車追放運動その他各種行事、広報誌、ポスター等各種広報媒体を通じて、積極的に広報活動を推進する。
- ・関係機関・団体と連携を密にして、違法駐車や放置自転車・バイクの追放運動を効果的に推進する。



秋の全国交通安全運動実施結果

9月21日(土)から30日(月)まで行われた秋の全国交通安全運動期間中、各地区交通安全協会では地元警察署等と連携し、「交通事故死ゼロを目指す日」の取り組みなど交通安全パレードや各種キャンペーンを積極的に開催して、運動の周知と交通安全を呼びかけました。(巻末参照)

期間中の交通事故発生概況は、前年同期と比べて発生件数、負傷者数ともに減少しましたが、高齢者及び二輪車の関係する事故は増加しました。死者数につきましては前年と同数の5人で、亡くなられた方の内訳は、二輪車運転者が2人、歩行中の6歳の児童及び84歳と71歳の高齢者でした。

● 期間中の県下の交通事故発生概況

区分	発生件数(件)	死者数(人)	傷者数(人)
本年	949	5	1,116
前年同期比	-3	±0	-43
増減率(%)	-0.3	±0	-3.7

● 期間中の都道府県別死者数ワースト

順位	①	②	④	⑤	⑥	⑦	⑨							全			
都道府県別	北海道	埼玉	大阪	兵庫	新潟	神奈川	東京	福井	千葉	長野	愛知	三重	和歌山	岡山	山口	佐賀	国
死者数	10	9	9	8	6	5	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	121
前年同期比	+9	+4	+5	+3	+3	±0	-1	+3	-1	-4	-10	+2	+1	+1	+2	-1	-4

交通安全こどもサミット

秋の全国交通安全運動期間中の去る9月22日(日)、今年の交通安全子供自転車全国大会団体の部で見事第8位に輝いた厚木市立清水小学校において、「僕たち、私たちが未来を創る」と題し、神奈川県警察本部長、厚木市長、宮崎緑千葉商科大学教授と児童13人、地域住民約400人が出席して交通安全こどもサミットが開催されました。

テレビ局等多くの報道機関が取材する中、児童から集めたアンケート(交通マナーの現状、未来の予想等)の結果発表とドライブレコーダーの視聴に基づいて意見交換を行いました。「交通事故をなくすひみつ道具」として、児童から「空飛び車」、「クッション車」、「信号無視を邪魔するロボット」、「隠れた危険を発見する装置」など奇抜な意見が出されました。宮崎緑さんなど出席者からは感謝の気持ち、相手を思いやる心、ルールを守る心が大事であるとの呼びかけがあり、最後に交通安全提言を行った後、交通安全旗に寄せ書きを行いました。



第48回交通安全子供自転車全国大会観戦記

神奈川県警察本部交通部交通総務課
交通安全教育隊 前田由紀美



「全国大会だけあってレベルが全然違う。」それが全国大会を初めて見る私の感想でした。県大会ではほとんど成功する人がいないピンのスラロームを選手たちは1本も倒さず、安定感のある走りでスイスイとこなしていった。スラロームだけではなく、他の競技も同様に、見事なハンドルさばきで完璧な実技を披露していく。そんなレベルの高い大会だからこそ、少しのミスで大きく順位が変わる。実技を終えた選手が母親に連れ添われながら、応援席に戻ってくる。選手の頬には、ぼろぼろと涙が流れていた。この大会に向けて努力してきたこと、監督や指導員への想いに応えられなかったこと、チームに申し訳ないという気持ちが私にも伝わり、一発勝負の刹那、こちらまで胸が痛くなる。そんな独特な緊張感が漂う会場の中で、初めて神奈川県代表として出場した厚木市立清水小学校の選手たちは緊張しつつも、次々と正確な実技を披露し、応援団から拍手が沸き起こっていた。この日まで選手たちは、平日はもちろん、土日も監督や指導員から厳しい訓練を受けてきた。小学校の体育館に本番さながらにマットをひき、熱気あふれる中で練習をしていた。聞けば、最初は監督たちが細かい指導をしていたが、そのうち選手同士でチェックをし合い、どうすれば優勝できるかを選手自身で考えながら練習しており、指導員にも彼らの必死な思いが伝わってきたという。選手たちに練習のことについて聞いてみると、「練習は厳しく、体育館の中も暑かったが、多くの方から差し入れをいただいて、とても嬉しかった。」と、言っていた。周りの支えがまた選手のやる気へと繋がっていったのだと感じた。そんな周りの人の想いに応えようと、本番に挑む真剣な選手の姿に涙が出そうになる。全ての競技が終わる、成績発表へと変わった。団体10位から表彰が始まり、会場は静まった。「第10位、第9位…」次々に表彰が進む。「第8位…神奈川県」選手も応援団も一瞬びっくりにした顔をしたが、次の瞬間歓声へと変わった。個人でも2位に入賞し、今までの努力が報われたと思った。最後に選手たちに喜びの声を聞いてみると、「本当に嬉しい。監督や指導員の方にありがとうと伝えたい。」と笑顔で話した。選手たちは、人に感謝する気持ちや人とのつながりなど、入賞以上の宝物を手に入れ、心身ともに大きく成長したに違いない。この大会にここまで感動するとは、私自身思っていなかった。もっと多くの人に、この自転車大会を知ってほしいし、そして色々な人にこの貴重な体験をしてほしい。来年もまた楽しみです。神奈川県代表として出場した厚木市立清水小学校の選手のみなさん、プレッシャーが大きい中、とてもすばらしい演技でした。本当におめでとうござります。



個人総合2位の藤岡選手

地区交通安全協会会長会議の開催

9月11日(水)午後、県協会会館において地区交通安全協会会長会議が開催されました。

会議の冒頭で新たに会長に就任した高津、横須賀、葉山町、藤沢市、大磯地区、相模原南の各交通安全協会会長を紹介した後、石坂会長から県内の交通事故は減少傾向にあるが、高齢者や二輪車の事故が多いことから年末にかけて気を引き締めに行く必要があること、去る7月4日、神戸地裁が子どもの自転車事故に対してその母親に9,500万円の高額賠償を命じたことなどをとらえて、今後の自転車交通事故防止運動のあり方に言及し、最後に秋の全国交通安全運動の取り組みについて尽力をいただきたい旨の挨拶がありました。

続いて県警本部怒田交通総務課長が交通事故発生件数、死者数、負傷者数が減少傾向にあることに謝意を表し、今後も秋の全国交通安全運動等を通じてまず高齢者、次に二輪車対策、加えて飲酒運転根絶、自転車マナーアップの4つの対策を重点に推進し、一人でも犠牲者を出さないようにしたいと挨拶がありました。

平田運転免許本部長からは、免許人口が東京都に次いで全国で2番目に多いこと、鎌倉警察署の即日交

付開始、また高齢者事故が多発していることから高齢者講習の充実と事故相談への対応、加えて運転経歴証明書、周知と運転免許証の自主返納制度の支援について、さらに新運転免許試験場設立に向けて準備をしている旨の挨拶があり、また、県安全防災局安全安心部藤井参事官からは高齢者事故多発地域の指定に伴う対策、取り組みについて挨拶をいただきました。

会議では、西村専務理事から9月11日から始まる秋の全国交通安全運動の進め方と各地区の取り組み、平成26年の年間行事計画等について、各部長から所管事項についてそれぞれ説明がありました。



挨拶する石坂会長

各地区で交通指導員研修開催

今年には特に連日の猛暑の中、地区交通安全協会の中核として毎月の交通安全日や夏祭りなどの各種イベント等において、ボランティア活動をされている交通指導員の皆様方、大変ご苦労様です。

今年度は3年に一度の交通指導員の委嘱替え年度に当たり、相当数の入れ替えがありましたので、特に新たに交通指導員となった方に対する街頭活動の要領や心構えなど研修内容を充実させる必要があることから、各地区では、交通指導員事業運営要綱に基づき、交通指導員の教育訓練の環として研修会を開催しています。



相模原北交通安全協会の研修会
なく、地
元警察署
交通課等
と連携し
て早急に
計画実施
するよう
お願いし
ます。

《交通指導員の補充募集》

交通指導員は、街頭指導や交通安全教室、各種キャンペーン等の交通安全活動、祭礼時における交通対策など各地区交通安全協会の活動の中核をなっているボランティアであり、地元警察署や地域住民などから大いに頼りにされています。

しかし、従事員不足からこれまで二度にわたり基準年齢の延長などの施策を講じてきましたが、一部地区を除いて各地区とも高齢化等により若干の欠員が生じています。

各地区協会にありません。警察本部交通総務課を通じて各警察署にも欠員補充対策の指示がされていますので、警察署交通課や自治体交通担当、地元町内会等との情報交換、働きかけなどを通して、特にボランティア意欲のある若い方の勧誘等効果的な補充対策を推進されますようお願いいたします。

県警からのお知らせ

「ゾーン30の日」の制定

県警察本部では、毎月30日(2月を除く。)を「ゾーン30の日」と定め、住宅地域等の道路を最高速度時速30キロ等ゾーン設定し、区域内の自動車の抜け道や走行速度を抑制し、歩行者等の安全を確保する対策を推進します。

初日に当たる9月30日は、警察本部から白バイ隊員を派遣して、地元警察署員とともに午前7時30分から1時間、「ゾーン30」設定区域や、未設定については設定予定区域その他通学路等において、子どもの見守り活動、高齢者の保護誘導活動等を行い、「ゾーン30」の周知を図りました。



都筑区荏田南のゾーン30区域

交通事故の悲劇に学ぶ⑨

●「全てを背負う覚悟」

目を閉じると、今でも事件の惨状を思い出し、「自分殺人」という事実押し潰されてしまいそうになります。

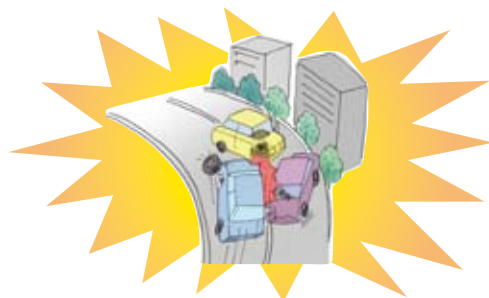
当時、私は大学4年生であり、就職も決まって順調な日々を過ごしていました。事件はそんな時期に、友人とスポーツを楽しんだ後に友人を助手席に乗せて家に送る途中で起こしてしまいました。

私は、制限速度30キロの道路を3倍以上の時速100キロ近くまで自車を加速させ、下り坂の緩い左カーブでコントロールを失い、対向車2台に続けざま衝突させてしまいました。私は、1台目に衝突し、大破した被害者車両に駆け寄りました。そして、救急隊が到着するまでの間、気を失っている被害者の方の体を支えながらひたすら声を掛け、謝り続けていました。

私自身怪我をし、パニック状態だったので被害者の方とは別の病院に搬送され治療を受けました。治療後、被害者の方が搬送された病院に謝罪と安否の確認のために向かいましたが、向かった病院ではとても謝罪できる状況ではありませんでした。とにかく無事だけを祈りながら、私は警察の出頭要請に応じ、出頭しました。しばらくして、被害者の方が亡くなったという知らせが入り、そのまま逮捕となりました。

私はこれまで、交通事故なんてテレビや新聞での別世界の話で、気にしたことも特に無ければ、他人事のように思っていました。そんな私が自車を危険な高速度にまで加速させた理由は、自身の運転技術に対する自惚れがあったこと。そして、スポーツ直後の高揚感もあったことから、友人に自車の加速性能を見せつけたいという、弁解の余地のない愚かなものでした。

勾留された私は、就職の話は流れ、大学は退学処分となりました。そして、「自分殺人」という事実押し潰され、死んで償うしかないと思えるようになり、ただ宙をぼんやりと眺めることが多くなりました。しかし、とにかく被害者にご遺族の方に謝りたくて、何通も謝罪文を書きました。ご遺族への直接の謝罪は、私の代わりに両親が何度も行ってくれました。その時の両親の気持ちを考えると自分があまりに情けなく、私は、自分の家族にさえも言葉では言い表せない辛い思いをさせてしまいました。父は心労から体重が大幅に減り、家の雰囲気は暗く、重いものになり、時が止まったかのようであったと後から聞きました。そして身内だけでなく、被害者の方の幼いご子息がショック



から精神的に不安定になっていることを知り、改めて自分の犯した罪の大きさとその影響を痛感しました。私に言い渡された判決は、危険運転致死傷罪、懲役3年6月というものでした。事件の原因と尊い命を奪い、さらにそのご家族を滅茶苦茶にしたことを考えると、軽すぎるのではないかとも思いました。

被害者ご遺族とは示談が成立し、私のことを許す旨の文書をいただきました。しかし、被害者の方にご遺族のことを考えると自責の念が薄まることはありません。「人の命の重さを忘れないでほしい」受刑生活が始まってすぐにご遺族から伝えられた言葉です。毎日この言葉を考えながら、被害者の方に私の行動全てをいつ見られても恥ずかしくないように生きる決意をしました。一生懸命生きていけばそれが償いの一つとなり、いつか自分自身を許してやれるのではないかとも思いました。しかし、私が無謀で危険な運転をしなければ、私が今こうして生きている1秒1秒を被害者の方も過ごせたはず。という思いが、月日の経過とともに大きくなり、命の重さを痛感しています。

交通事故は、事故では済まされません。被害者の方の人生、ご遺族、友人、職場は勿論のこと、自分の人生、身内など限りなく広い範囲に多大な影響を及ぼします。そこにあるのは絶望だけです。そして、償いに終わりはありません。その全てを背負う覚悟はありますか？ 被害者側の絶望だけでなく加害者側の絶望の両方を、もう誰にも経験してほしくありません。

この手記は、たった一人でもいいですから私の愚かさを反面教師として、少しでも事故を起こさないように車を運転してほしいと祈って書きました。私が無視した制限速度は、道路状況に応じて誰しもが安全で被害者にも加害者にもさせないために設定されています。どうか安全を最優先にした運転をお願いしたいと思います。

～(一財)東京都交通安全協会編集発行「贖いの日々(第46集)」から～

インフォメーション

- 県交通安全功労者表彰式(11/7)
_____ 県立音楽堂
- 自転車安全教育指導員講習会(11/8)
_____ 辻堂交通公園
- 自転車安全教育推進委員会(11/15)
_____ 県協会会館
- 二輪車安全運転推進委員会(11/15)
_____ 県協会会館
- 二輪車安全運転特別講習(11/16)
_____ 運転免許試験場
- 飲酒運転根絶大会(11/22)
_____ 海老名市文化会館

賛助会員のご紹介

このコーナーでは、賛助会員としてご協力をいただいている企業等を順次ご紹介しています。(敬称略)

- (株) T. F. K 横浜支店
_____ 横浜市中区住吉町
- (株) 相鉄エージェンシー
_____ 横浜市神奈川区栄町
- ダイドードリンコ(株)
_____ 横浜市港南区丸山台

本誌9月号記事の訂正とお詫び

下記のとおり訂正して、お詫びします。
 ・表紙下段の県人口女欄……4,544,031を4,535,967に訂正。
 ・3ページ下段の自転車足柄上地区大会欄……1市5町に中井町が欠落していたので加える。
 ・7ページのこの人欄上段2行目……前戸崎信一会長を前外崎信一会長に訂正。

高齢者交通事故

多発地域の指定

神奈川県内の交通事故情勢は、人身事故の発生件数、死者数、負傷者数ともに減少傾向が続いていますが、今年上半年を見ると、高齢者(65歳以上)の関係する交通事故が4,634件(28.3%)と昨年同期より件数及び構成率ともに増加し、死者数も32人と昨年同期を大きく上回るなど、憂慮すべき情勢となっています。

そこで神奈川県交通安全対策協議会(会長 黒岩神奈川県知事)では、増加傾向にある高齢者の関係する交通事故を抑止するため、今年上半年に高齢者関係事故が多発した17地域(7市2区8町)を9月1日付けで「高齢者交通事故多発地域」に指定し、「秋の全国交通安全運動」の取り組みと高齢者交通事故防止対策を連動させるなど効果的な対策を推進することとしました。

○ 指定地域

横浜市中区、相模原市中央区、平塚市、小田原市、三浦市、厚木市、伊勢原市、海老名市、南足柄市、大磯町、二宮町、大井町、松田町、山北町、箱根町、真鶴町、愛川町



セーフティトレーニング

9月9日(日)、抽選で選ばれた27人(男性25人、女性2人)の方がマイカーを会場に持ち込んで参加した「平成25年度セーフティトレーニング」が一般社団法人日本自動車連盟等主催、当協会等後援により関東運輸局神奈川運輸支局で開催されました。

当日は開講式の後、運輸支局の広い敷地内で柔軟体操を行い、運転の基本(運転姿勢、点検要領、車両の死角)、公道では体験できないバイロンスラロームによるハンドル操作要領、急ブレーキ、さらには雨天時を想定した急ブレーキ講習を行いました。午後からはASV(衝突被害軽減システム装備)車両による衝突回避体験及び路面湿潤時のESC(横滑り防止システム)登載車両による訓練も行いました。

ESC装置不使用時に車両が横滑りで二回転以上する体験と、ESC装置使用時には横滑りしないでカーブを曲がれるなどの体験をした参加者は、最新装備車両の威力にびっくり。他の参加者からも「最近は運転がマンネリ化しており、危険箇所を見落とすことがあるので参加したが、自己流の運転、クセを見直すことができた」などと好評でした。講習後受講者に修了証が交付され、参加者一同改めて安全運転を誓いました。



感謝状の贈呈式

9月11日、一般社団法人神奈川県自動車会議所の筒井康之会長及び全国共済神奈川県生活協同組合の上関康樹理事長をお招きして、多年にわたり交通安全に深い理解を示され、当協会の運営に格別なご協力をいただいている事に対し、当協会石坂浩二会長から感謝状を贈呈しました。



石坂会長と筒井会長



石坂会長と上関理事長

第46回二輪車安全運転全国大会準優勝祝賀会

去る8月3、4日、三重県鈴鹿で行われた全国大会に出場した神奈川県チームが、平成22年の準優勝以来3年ぶりに団体で準優勝、個人では、Aクラス優勝、Cクラス第3位、女性クラス第3位に入賞したことを記念して、8月31日、新横浜グレイスホテルにて祝賀会を開催しました。

祝賀会には、神奈川県二輪車安全普及協会の奥村会長、富樫専務理事、神奈川県警察本部交通総務課から吉田課長補佐、白バイ特別訓練監督鈴木警部補以下全国白バイ大会に向けて特別訓練中の特選員、当協会からも西村専務理事以下大勢がお祝いに駆けつけました。

西村専務理事と奥村会長からお祝いの言葉、記念品の贈呈のほか、大会当日の各選手の奮闘、表彰式等を記録したDVD上映などがあり、また出場した人からエピソードを交えたスピーチに会場は終始笑い、大いに盛り上がりま





大磯地区交通安全協会
会長
杉原 芳明さん
すきはら よしあき



大磯地区交通安全協会
は、大磯町・二宮町を管内と
し、白砂青松の相模湾に臨
み、自然環境の恵みと、由緒
ある歴史・文化にも恵まれ、
東西を横断する旧東海道は、
国道1号線として経済流通
の動脈路となっています。

今回は、この地で交通安全
のリーダーとして活躍され、
このたび協前会長の後任と
して会長に就任された杉原
芳明さんを紹介しします。

会長は、昭和42年から平
成13年まで交通指導員を務
めた後、理事・副会長を経て
会長に選出されました。

群馬県出身で就職を機に
姉夫婦のいる大磯へ。自動車
整備工場を経営し、交通事
故車両をレッカー車で運んだ

こともたびたびのことだと言
います。「負傷者の血が付い
た車も動かした。交通事故
は被害者と加害者、その家
族も苦しい思いをする。特に
命を亡くすような事故は起
こしてはいけない。」と語り
ます。運転歴は60年近くに
なり、現在も優良運転者と
して緑十字金章を誇りにハン
ドルを握っています。

交通安全活動のほか、地
区の区長、福祉関係会長を
務めるなど長年にわたり地
域のボランティア活動に携わ
ってきました。趣味はカラオ
ケで、「無法松の一生」といった
ような豪快で人情に厚い歌
の世界を好み、地区の仲間と
楽しんでいきます。

会長は、自転車や高齢者

の交通事故が多発している
ことを憂慮して「会員・町民
とともに力を合わせて交通
事故防止に努めていく」「協
会運営に当たっては、警察を
はじめ交通関係機関・団体と
緊密な連携をとりながら各
季の交通安全活動では強力
なリーダーシップで事業を推
進していく」との抱負を語り
ます。

会長には、今後とも健康
に留意され、長年培ってきた
交通安全活動の経験を活か
し、悲惨な交通事故撲滅の
ため益々活躍されること
をお願いします。

(取材協力…大磯地区交通
安全協会)

こんにちは
「磯子交通安全協会」です

今回は、磯子交通安全協会が取り
組んでいる年間の活動のうち、春と年
末のキャンペーンについて紹介します。
今年の春の全国交通安全運動で
は、4月8日にJR根岸線洋光台駅前
で元横浜ベイスターズの鈴木尚典氏
を一日警察署長として迎え、キャン
ペーンを展開しましたが、これは磯子
警察署の前中村交通課長が洋光台
の商店街の会合に出席した際、横
濱DeNAの広報担当畑山氏と同席
したのが縁で実現することができま
した。
鈴木氏は身長が186センチの長身
で足が長く、県警本部で一番股下の
長い制服を借りてきました。楽しいト
ークショーやジャンケン大会をして、勝
っても負けてもサインボールを子供た
ちにプレゼントしてくれました。トー
クショーでは、「交通安全は日頃の心
掛けと取り組みを継続することが大
切です。

それは野球も同じです。」と話され
ました。その後、うさぎとおかみの
着ぐるみも登場して一緒に通行人に
交通安全を願ってチラシを配りまし
た。毎回、警察署、区役所、協会他
多くの関係団体約50名の参加を得
て、500人分の啓発物品を通行人に
配布しています。
12月には、年末の交通事故防止
運動キャンペーンの一環として、パ
レードを実施しており、16年前か
らの恒例行事として黒川会長の地
元商店街で盛大に行っています。
昨年は、白バイの先導のもと、先
頭は交通指導員が交通安全の横断
幕を掲げ、続いて地元小学校の金
管バンド100名、関係団体のリー
ダー、その後、警親会の皆さんが
「交通安全」提灯を高く掲げ、そ
の行列は相当長くなります。狭い
商店街なので一時的に車両を通行
禁止にするのはもちろん、国道16
号線を横断するときは警察署員
による交通整理、誘導をお願いし
てスムーズで効果的なキャンペー

ンに心がけるとともに、あどけ
ない子供たちの元気な演奏を聴
いていただき、通行人や商店街
の方々にチラシやグッズを配布し
ながら交通安全を呼びかけていま
す。特にキャンペーンへの商店街
の皆様のご理解とご協力には大変
感謝しております。
今後も、関係者等関係団体と連
携して「交通安全」がただの言葉
だけ、かけ声だけのものに終わ
ることなく、もっと一人ひとりの
生活の中に溶け込み、身近なも
のとして考え受け止めていただ
けるよう、印象に残るより効果
的なキャンペーンを展開してい
きたいと思っています。(佐藤 記)



〈現役時代の鈴木尚典選手〉

地区交通安全協会の活動紹介



緑
 芸能人に日警察署長を委嘱し、緑署からJR中山駅まで交通安全レイドを行い、同駅前でキャンペーンを行った後、さらに緑公会堂までパレードを続け、同公会堂で開催した区民大会で交通安全宣言を行いました。



金沢
 区内の小学校6年生に日警察署を委嘱し、京急金沢文庫駅前、交通関係団体等120人の参加を得て、駅乗降客等に対し、チラシなどを配布しながら、交通死亡事故抑止を呼びかけました。



麻生
 TBSお天気キャスターを日警察署長に委嘱し、警察署から新百合ヶ丘駅までパレードを行い、同駅前広場においてチラシやタオルを配布しながらキャンペーンを実施しました。



宮前
 東急鷺沼駅前、村野会長が水戸黄門に扮し、「助さん」、「格さん」等御行を従えて、「宮前関所」を設け、道行く人(車)に安全運動の周知と交通事故防止を呼びかけました。

秋の全国交通安全運動



大和綾瀬
 TBSテレビアナウンサーを日警察署長に委嘱し、鶴間駅前からオークシティまでパレード、秋の全国交通安全運動出陣式の後、同所の大形店舗前において交通安全を呼びかけました。



鎌倉
 ミス鎌倉に、一日警察署長を委嘱し、幼稚園児100人を対象に横断歩道や踏切の渡り方などを指導する交通安全教室を開催した後、白バイ隊員による華麗なテクニカル走行を見学しました。



相模原南
 秋の全国交通安全運動の初日、TBSお天気キャスターに日警察署長を委嘱し、小学校鼓笛隊とともに交通安全パレードを行い、相模大野駅前において通行者チラシなどを配布しながら交通事故防止を呼びかけました。



海老名市
 海老名駅前において、市長、警察署長等が挨拶の後、海老名及び有馬高校生徒約140人が、スマートフォン交通安全特設サイトの乗用車に携帯電話や「ドコモ」を利用をしながら声かけを行うとともに、形式で掲示板を出して通行人に呼びかけました。

編集後記

「天高く馬肥ゆる秋」、行楽にスポーツに活動しやすい季節になってきました。今年度の体育の日は10月14日ですが、体育の日と言えは思い出されるのが、昭和39年10月10日、アジアで最初に開催された東京オリンピックです。小生も胸をワクワクさせてながら日本選手活躍の毎日テレビで見えていました。普通、開季のオリンピックはもう少し早い時期に開催されるのですが、東京オリンピックを異例に遅い10月10日に開催したのは、秋雨前線が去ったことによる、と言われていました。何はともあれオリンピックは大成功裡に終わり、昭和41年から10月10日を国民の祝日の日とし、平成12年からは「ハッピーマンデー制度」の適用によって10月の第2月曜日が体育の日として祝日となりました。この体育の日は国民の祝日の日に関する法律第2条によれば「スポーツにしたしみ、健康な心身をつちかう」ことを趣旨とします。

これと直接関係はありませんが、健康増進という点では、昨今、朝な夕なに男女を問わずお年寄りが一生懸命歩いている姿を良く見かけます。そんな長生きしたいのかなあ、といった穿った見方もあるかも知れませんが、よくよく考えてみると、何も長生きしたいという理由だけではないのではないかと思います。人間はせいぜい長生きしても100歳位でしょうか、その限られた「生」を生き活きと最期まで生きたいということだろうと思うようになります。そういう眼でお年寄りの歩いている姿を見ると何か清々しい感じがしますし、自分もその年齢になったら「生」に真剣に向き合いたいという気持ちになります。

ところが、こうした一生懸命生きているお年寄りが悲惨な交通事故の犠牲になっております。本当に悲惨で残念なことです。今後、神奈川県は全国で一番高齢化の進捗が早くなつてくると言われています。高齢者の交通事故防止は正にこれからは正念場を迎えます。

(只野 記)